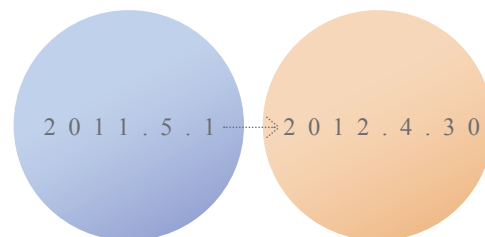


株主の皆さまへ



 JASDAQ

証券コード：7777

3D MATRIX
MEDICAL
TECHNOLOGY

2011年10月24日、株式会社スリー・ディー・マトリックスは、JASDAQ市場グロースに上場いたしました。



代表取締役会長 永野 恵嗣



代表取締役社長 高村 健太郎

このたび当社は、株式会社大阪証券取引所よりご承認をいただき、2011年10月24日をもちまして大阪証券取引所JASDAQ市場グロースに上場いたしました。これもひとえに皆様のご支援の賜物と深く感謝申し上げます。

当社は今後、医療の進展と人々の健康に寄与すべく事業の拡大を目指し、株主の皆様より託されたご期待にお応えできるよう全力を尽くしてまいります。

引き続き当社事業へのご理解とともに、一層のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

企業理念

バイオマテリアルによって医療の進展に貢献する

外科領域および再生医療領域を中心に、差別化された製品開発を展開し、グローバルな競争力の獲得を目指します。

基盤技術は米国MIT (マサチューセッツ工科大学) 発の 「自己組織化ペプチド」です。

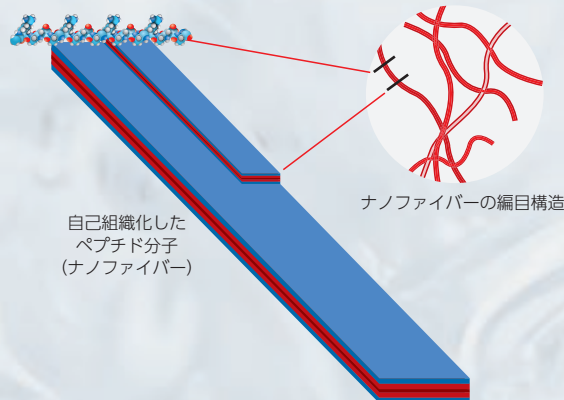
自己組織化ペプチドの仕組み

PuraMatrix™

当社が開発する自己組織化ペプチドは、両親媒性のペプチドで構成されており、pHの変化または溶液中の無機塩に反応することでナノファイバーを形成し、マクロには、ゲル化(自己組織化)が起こります。自己組織化したペプチドハイドロゲルでは、アミノ酸の疎水結合と相補的な電荷の分布によって形成されるナノファイバーによって3次元構造が維持されています。



ペプチドハイドロゲル



「自己組織化ペプチド」をコア技術とする 医療製品開発に特化し、着実な成長を目指します。

独自技術に基づくアプリケーション開発に特化し、ローコスト・ローリスクな製品化プロセスを確立。短期間で収益化が期待できるビジネスモデルです。

ビジネスモデル

基盤となる自己組織化ペプチドの基本特許は
MITが保有

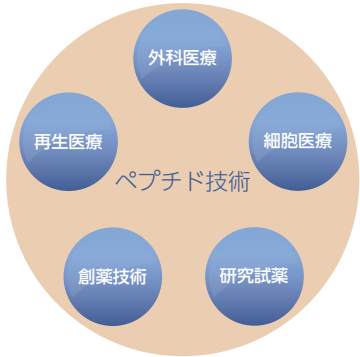
当社および当社子会社はMITとのライセンス契約により、自己組織化ペプチド技術の基本特許に関する専用実施権を取得。これに基づく医療製品事業を展開しています。

自己組織化ペプチドは、原材料に生物由来品を含まないため
安全性が高く、幅広い領域への利用が可能

化学合成で生産される自己組織化ペプチドは、生物由来品から生じるウィルス感染等のリスクがありません。高い安全性と幅広い応用性、そして大量生産性も特長です。

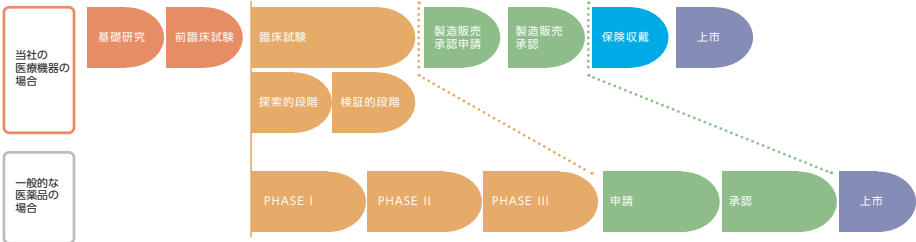
医療機器に分類されるため、医薬品に比べ
申請から承認までの期間とコストを大幅に圧縮

医薬品の開発プロセスでは、臨床試験が多段階に設定され、承認までの期間が長期化する傾向にあります。一方、当社が手掛ける医療製品は「医療機器」として分類されており、臨床試験が医薬品よりも短期間で済みます。そのため、製品上市までの時間・コストの大幅な圧縮が可能です。



研究開発プロセス

一般的に臨床試験、製造承認の期間が医薬品と比較し短期間で終了



主要事業

医療製品事業

自己組織化ペプチド技術による製品の研究開発・製造・販売を目的とした医療製品事業を行っています。現在、吸収性局所止血材をはじめとする4つのパイプラインを推進し、製品化に取り組んでいます。また、研究試薬としてPuraMatrix™製品を販売しています。

医療製品開発

外科領域および再生医療領域を中心に、医療機器・医薬品の研究開発を行います。主要な開発パイプラインとして、外科領域では吸収性局所止血材、粘膜隆起材、血管塞栓材、再生医療領域では歯槽骨再建材を有しています。



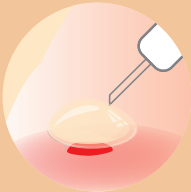
研究試薬販売

米国のBecton, Dickinson and Companyを通じて、PuraMatrix™製品を研究試薬用途で販売しています。同製品は、国内外の大学・研究機関等において、自己組織化ペプチドによる様々な医療分野の応用研究に用いられています。



吸収性局所止血材

血液等の体液との接触によりナノファイバーを形成し、ゲル化します。ゲルは体組織との接触面を隙間なく被覆し、被膜を形成して表面皮膜および血管浅部を物理的に閉鎖。血管深部に血液凝固を生じることによって止血効果をもたらします。



粘膜隆起材

内視鏡手術による胃癌や食道癌等の粘膜切除術や粘膜下層剥離術に際し、腫瘍部位の粘膜隆起を形成する粘膜下注入材です。血液等の体液と接触することでゲル化し、必要な隆起を形成するとともに、副次的に止血効果も発揮します。



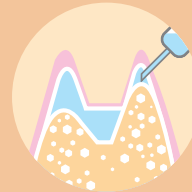
血管塞栓材

肝動脈塞栓術および子宮動脈塞栓術に際し、塞栓物として用いるための血管内塞栓促進用補綴材です。血液との接触によってゲル化する本製品をカテーテルから動脈内に注入し、血管内腔を塞ぐことで、腫瘍への栄養補給を絶つものです。



歯槽骨再建材

歯周病による歯槽骨の退行で歯が脱落した場合、インプラント固定に必要な骨量を確保するために、歯槽骨再建術を行います。本製品はその足場材となるもので、骨量不足箇所への充填により細胞の増殖環境を作り、骨再生を促進します。



市場ニーズに合ったビジネスモデルにより、 医療への貢献を果たしてまいります。

代表取締役会長 永野 恵嗣

**MITが求めている事業化ニーズに応え、
確実に形にしていくことで、
パートナーとしての信頼関係を構築。**

永野 | 上場を機に、多くの方々から当事業への関心を寄せていただいておりますが、特に投資家の皆さまからは、当社が自己組織化ペプチド技術の事業化権を獲得した米国マサチューセッツ工科大学(MIT)との関係について質問されることが多いですね。

高村 | 事業化に向けてMIT側で立ち上げたベンチャー企業に対し、ボストンで経営コンサルタントを行っていた永野自身が出資したことが、その端緒となったのですが、日本で当社を設立して同ベンチャーを子会社化し、現在に至るまで、一貫し

てMITの協力を得ているのは、事業化パートナーとしての信頼関係によるところが大きいと思います。

永野 | そうした当社とMITとの関係は、もちろんライセンスフィーの支払いを通じて維持しているのですが、それ以上に重要なのは、MITが求めている事業化ニーズに応え、確実に形にしていく姿勢で

す。MITには、学内で生まれた先端技術を世の中に出し、社会に貢献していくという理念があり、収益追求よりも優先されているわけです。

高村 | そうですね。そして当社もまた、その優れた技術に応用した安全な製品を創出し、多くの医療現場と患者さまにお届けすることで、広く社会に貢献したいと考えています。

**独自のビジネスモデルによるパイプラインが
順調に進捗し、期初の計画を超えて黒字化を達成。**

永野 | 従来のバイオベンチャーと異なる、当社独自のビジネスモデルにも、大いにご注目いただきたいですね。

高村 | 医薬品でなく医療機器として承認取得する短期かつローコストな製品開発プロセスを確立していること。また、アプリケーション開発に特化したラボレス・ファブレス体制により、極めて効率的なビジネスモデルを推進していること。さらに、同一原材料から複数の製品化に向けたパイプラインを展開している点は、他に類を見ないでしょう。

永野 | そのパイプラインは現在、「吸収性局所止血材」「粘膜隆起材」「血管塞栓材」「歯槽骨再建材」の4つを開発しており、止血材は昨年5月に国内で製造販売承認申請を行いました。本年度中には同承認を取得し、上市を果たす見込みです。粘膜隆起材と血管塞栓材は国内で前臨床試験段階にあり、歯槽骨再建材は米国で臨床試験段階に移行しています。

高村 | そして当期業績は、止血材の国内独占販売権の許諾先である扶桑薬品工業株式会社から、製造販売承認申請に伴うマイルストーンペイメントを獲得し、加えて、同社と科研製薬株式会社の販売提携合意による一時金を計上したことから、期初の計画を超えて黒字化を遂げました。

海外展開の本格化を中期的テーマとして、 成長スピードを一気に加速していきます。

代表取締役社長 高村 健太郎

永野 | 市場ニーズに合ったビジネスモデルによって、時流に乗ることができ、こうした順調な進捗につながっているものと自負しています。

国内における止血剤市場シェアの獲得と並行して、 アジア・米国・欧州などグローバル市場へ展開。

永野 | 国内の止血剤市場は現在、年間170億円前後で推移しており、潜在需要を合わせると年間300億円規模と見込まれています。当社製品の上市により、近い将来において国内市場では半数程度のシェアを確保したいと考えています。

高村 | そうですね。また、当社止血材は今後、グローバルな展開も進めていきます。韓国と台湾では日本での製造販売承認取得によって、承認審査が早期化される見通しです。同時に、米国市場および欧州市場への展開も進めていきます。今年4月には、欧州展開への布石として、フランス・リヨン市に子会社を設立しました。

永野 | 事業展開のグローバル化に向けて、今後の課題となるのは、人材の拡充ですね。米国および欧州において、現地市場に合わせた研究開発を推進していくための体制が必要となってきます。同時に、現地における治験関連費用やコンサルタント費用等の増加も予想しています。

上場企業として積極的かつ公正な情報開示に努めつつ、 さらなる成長と飛躍を目指し、医療に貢献。

高村 | 当社は、2015年4月期を最終年度とする中期経営計画を推進しています。計画当初は、2013年4月期からの収益化を想定していましたが、これを当期において実現したことにより、計画目標全体を上方修正しました。本年度中の止血材の国内販

売開始と海外における承認申請、その他のパイプラインの進展を前提として、2015年4月期に売上高80億6百万円、営業利益35億21百万円、経常利益35億15百万円、当期純利益22億22百万円の達成を目指すものとします。

その後は、海外展開の本格化を中期的テーマとして、成長スピードを一気に加速していきます。

永野 | 株主の皆さまには、当社事業の成長とともに、今後の配当開始時期へのご関心が高いことと存じます。

高村 | 利益還元につきましては、当面のところ将来の事業展開に向けた内部留保を優先させていただく考えでおりますが、繰越損失の一掃を果たした段階で、配当開始に関して前向きに検討いたします。

永野 | この度の上場により、多くの皆さまよりご支援を賜り、これからの事業拡大に必要な成長資金と信用力を確保することができました。あらためて心より御礼申し上げます。

当社は、上場企業として積極的かつ公正な情報開示に努めつつ、さらなる成長と飛躍を目指し、医療への貢献を果たしてまいります。

株主の皆さまにおかれましては、引き続き一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

吸収性局所止血材の国内製造販売承認を申請。
他のパイプラインも順調に進展しています。

止血材は、国内で製造販売承認の審査期間に入り、2013年4月期中の取得見込みです。
他の製品も臨床試験に入っており、販売契約締結への動きを進めています。

現在の販売契約締結状況	
《吸収性局所止血材》	- 扶桑薬品工業株式会社への日本における独占販売権許諾 および同社と科研製薬株式会社による販売提携 - Daewoong Pharmaceutical Co. LTD.への韓国における独占販売権許諾 - Excelsior Medical Co., Ltd.への台湾における独占的開発・製造および販売権許諾
《粘膜隆起材》	扶桑薬品工業株式会社への日本における独占販売権許諾

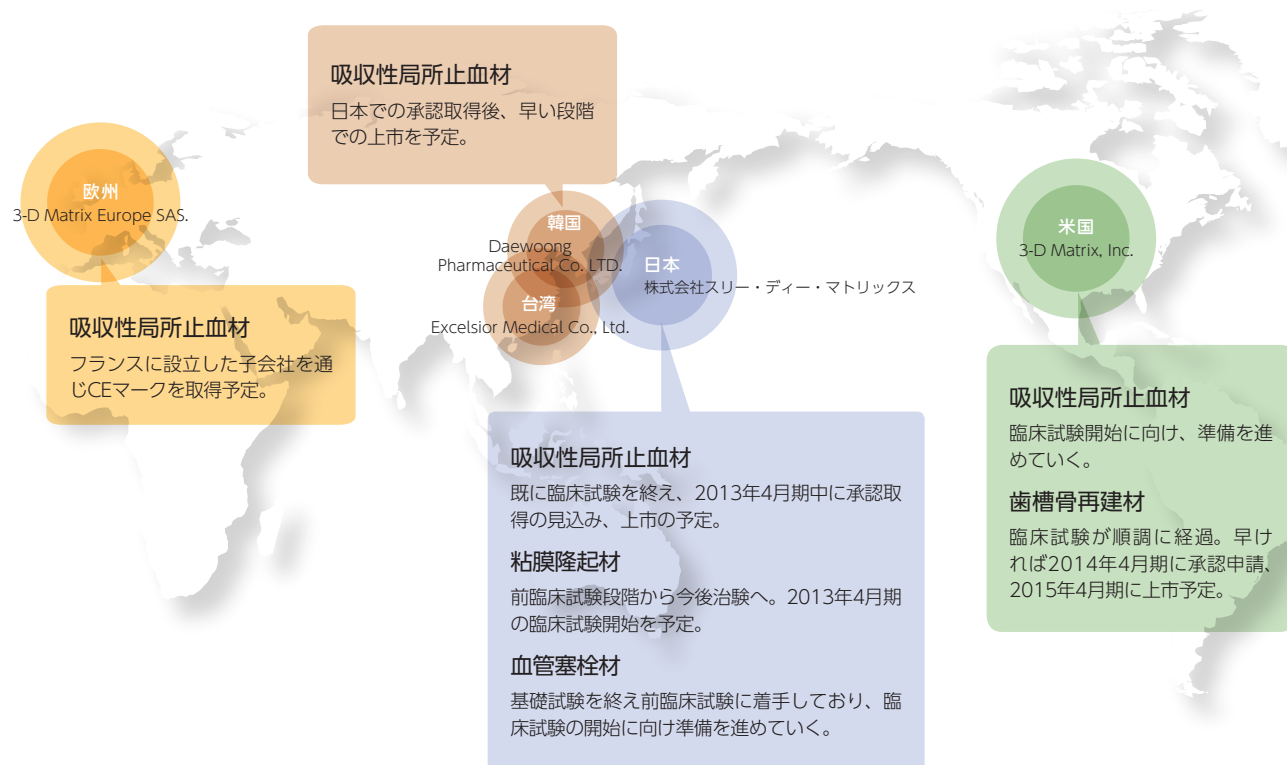
主要製品と開発パイプラインの状況

	地域	基礎研究 ／評価試験	前臨床試験	臨床試験 (治験)	製造販売 承認申請	製造販売 承認取得	保険収載	上市
吸収性局所 止血材	日本	→ 製造販売承認の審査中／2013年4月期中に承認取得見込み						
	韓国	■ ■ ■ ■ ■	■ ■ ■ ■ ■	■ ■ ■ ■ ■	承認申請準備中			
	台湾	■ ■ ■ ■ ■	■ ■ ■ ■ ■	■ ■ ■ ■ ■	承認申請準備中			
	米国	→ 治験計画届の申請準備中						
	欧州	→ 子会社設立 (2012年4月) ／開発準備開始						
歯槽骨再建材	米国	→ 米国で臨床試験開始						
粘膜隆起材	日本	→ 独占販売権の許諾契約済／治験計画届の申請準備中						
血管塞栓材	日本	→ 基礎試験済						

国内市場におけるシェア獲得とともに グローバル展開による成長拡大を目指します。

当社は開発パイプラインの立ち上げ段階から、海外市場での拡大を計画しています。
今後、止血材のアジア・米国・欧州での展開を加速していきます。

各地域における今後の展開



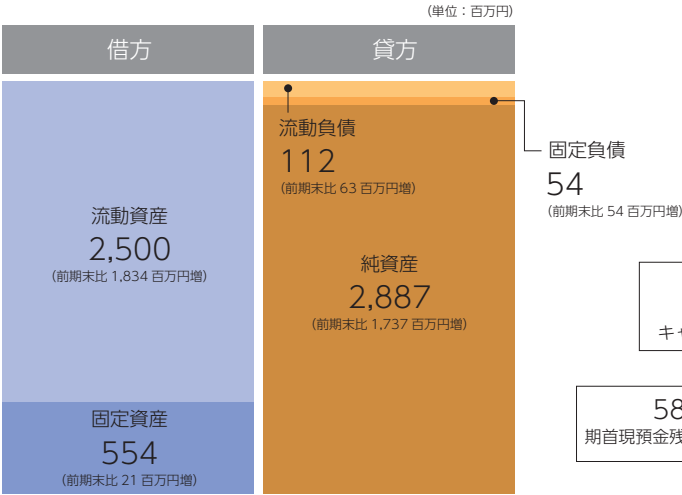
一時金の計上により、事業収益が大幅に増加。
上場後初決算における黒字化を実現しました。



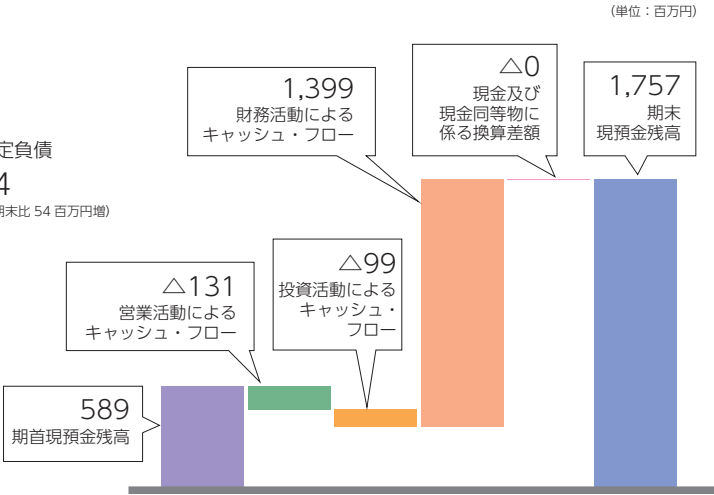
事業収益として、止血材の製造販売承認申請によるマイルストーンおよび扶桑薬品工業株式会社と科研製薬株式会社の販売提携の基本合意に基づく一時金、粘膜隆起材の国内販売契約に基づく契約一時金、国立がん研究センターとの共同プロジェクトによる受託研究費を計上しました。これにより、前期比7倍となる大幅な増収を達成しました。

利益面では、増収効果を中心に開発費用の圧縮も寄与したことにより、当初の予想を超えて早期の黒字化を果たしました。

資産の状況



キャッシュ・フローの状況



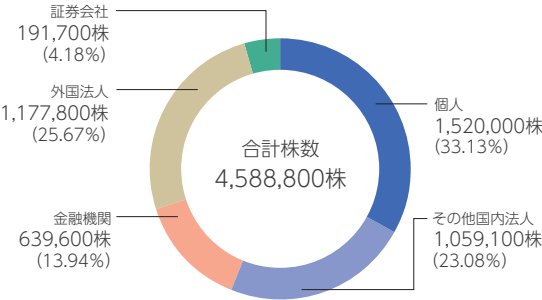
株式の状況 (2012年4月30日現在)

発行可能株式総数	15,168,000株
発行済株式総数	4,588,800株
株主数	1,963名

大株主の状況 (上位10位)

株主名	所有株式数 (株)	持株比率 (%)
永野 恵嗣	376,000	8.19
ニュー・メディア・ジャパン・ インコーポレイテッド	284,000	6.19
3DM Investment, LLC	277,000	6.04
日本マスタートラスト信託銀行 株式会社 (信託口)	265,500	5.79
MLPFS CUSTODY ACCOUNT	165,850	3.61
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社 (信託口)	162,000	3.53
扶桑薬品工業株式会社	160,000	3.49
安田企業投資4号投資事業 有限責任組合	108,800	2.37
野村信託銀行株式会社 (投信口)	104,300	2.27
伊藤忠ケミカルフロンティア株式会社	100,000	2.18
株式会社アイル	100,000	2.18

所有者別株式分布



※合計株数には、単元未満株式および自己株式を含んでおります。

株主メモ

事業年度	毎年5月1日から翌年4月30日まで
定時株主総会	毎年7月
基準日	株主確定基準日 毎年4月30日 剰余金の配当基準日 毎年4月30日 および10月31日
株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先)	☎0120-782-031 取扱事務は三井住友信託銀行株式会社の全国本 (各) 支店で行っております。
一単元の株式の数	100株
公告方法	電子公告により当社ウェブサイト (http://www.3d-matrix.co.jp/)に掲載 いたします。なお、やむを得ない事由により電子 公告ができない場合は、日本経済新聞に掲載 いたします。
市場名	大阪証券取引所JASDAQ市場グロース
証券コード	7777

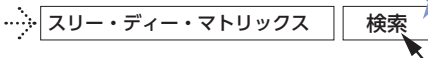
会 社 概 要

社名	株式会社スリー・ディー・マトリックス
英文社名	3-D Matrix, Ltd.
代表者	代表取締役社長 高村 健太郎
設立	2004年5月19日
決算月	4月
資本金	20億6,960万円(2012年4月30日現在)
本社所在地	東京都千代田区麹町3-2-4 麹町HFビル7F TEL.03-3511-3440(代表) FAX.03-3511-3402
社員数	連結22名(2012年4月30日現在)
事業収益	11億738万円(2012年4月期連結業績)
主な事業	自己組織化ペプチド技術を用いた医療製品の 研究開発、製造及び販売
ウェブサイト	http://www.3d-matrix.co.jp/

ホ ー ム ペ ー ジ の ご 案 内



<http://www.3d-matrix.co.jp/>



株式会社スリー・ディー・マトリックス



見やすく読みまちがえにくいユニバーサル
デザインフォントを採用しています。



環境に配慮した植物油インキ
を使用しています。